

# 里山暮らしを楽しむ

## 「やかまし村」元気

遠野・松崎町

地区共有地などを利用し、里山暮らしを楽しんでいる地区が、遠野市松崎町にある。わいわいがやがや語り合い、活気あふれる里山づくりを目指す「やかまし村」だ。26日は、開村の発端になった元八幡宮の例大祭。今年もにぎやかな祭りになりそうだ。

### あす地元の元八幡宮例大祭



手作りピザ窯で焼いたピザをさかなに、やかまし村の「村会議」は盛り上がる―遠野市松崎町

### ピザ窯囲み交流、遊歩道も完成

「やかまし村」は08年3月、宮代地区に住む平均年齢50歳超のメンバー約20人で結成したグループ名。糠森隆さん(60)のマキ置き場が中心的な集会場。そこに石を積み、赤土を集めて練り、近所の中高生や主婦らの力を借りて昨年11月にピザ窯を完成させた。

以来毎月2回ほど、そこで焼いたピザをさかなに酒を飲みながらわいわいがやがや。「年を取れば遠くまで出かけられないので遊歩道を造ろう」「池をつくって魚を放し孫たちと釣りをしよう」「あずま屋も造ろう」などアイデアを出し合った。隣に沢が流れているから池づくりは簡単。周辺地主らの了解を得て、借りてきた重機で遊歩道とともに造成を進めている。

「開村」のきっかけとなったのが、宮代元八幡宮の例大祭。集落の大人だけが集まり、神事の後に社殿で会食をしていたのを、「子供や老人も楽しんだ昔の村祭りに戻せないか」と糠森さんらが協議。14年前に模擬店が並び、

郷土芸能が披露される祭りが復活した。

今年も、25日に前夜祭があり、郷土芸能や遠野高校邦楽部のコンサート、パントマイムなどがある。26日も正午ごろから模擬店が並ぶ境内で同様の行事がある。

この活動に目を付けた首都圏の大学生らが8年前、「農村集落の活性化」をテーマに現地調査を始めた。6年前には、愛着をもってゴミの管理ができるようにと、集落のゴミ置き場をかやぶき屋根にした。これが周辺6地区にも広がり、一帯は「かやぶき街道」とも呼ばれるようになった。この流れの中で「やかまし村」が誕生し、卒業生も含めた学生たち約150人は村外村民になっている。

糠森さんは「資金はゼロだがやる気は十分。市がやれること、個人がやれること、集落がやれること、とそれぞれが役割を精いっぱい努力すればいい地域がつかれる。人生が楽しくなるような地域にしていきたい」と話していた。

(木瀬公二)